

平成三十一年度入学試験問題

国

語

(国語総合(近代以降の文章)、現代文B)

(三問)

平成三十一年二月二十五日

自 十二時三十分

至 十四時三十分

答案作成上の注意

- 一 この問題冊子には、国語総合(近代以降の文章及び現代文Bの問題があります。総ページは十九ページです。ただし、第七ページ、第十五ページは下書き用です。
- 二 解答用紙は一枚(表裏の二ページ)です。解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 三 受験番号は、解答用紙の所定の箇所に、必ず記入しなさい。
- 四 配付した解答用紙は、持ち出してはいけません。
- 五 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

著作権保護の観点から、公開していません。

著作権保護の観点から、公開していません。

著作権保護の観点から、公開していません。

(西部邁「保守の真髓」による)

問一 二重傍線部 a k e のカタカナを漢字で書け。

問二 傍線部①に「学校に(徳義瓦解の)責任を負わせるのは見当違いと思われてならない」とある。なぜ筆者はこう述べるのか。その理由を端的に示す部分を、学校のありように注目して、文章中から二十字以内で抜き出せ(句読点を含まない)。

問三 傍線部②に「問題がある」とある。なぜ「問題がある」と筆者は述べるのか。それを説明した次の文の()の中に入る適切な部分を、文章中から十五字以内で抜き出せ(句読点を含まない)。

教育には)

(側面があるから。

問四 傍線部③に「道徳の系譜学」とある。

1 ここでいう「道徳」とはどういうことか。文章中から十字以内で抜き出せ(句読点を含まない)。

2 ここでいう「道徳の系譜学」とはどういう学問のことか。1で答えた語句も使って四十字以内で説明せよ(句読点を含まない)。

問五 傍線部④に「知育や体育もまた徳育と無関係ではおれないのである」とある。なぜ無関係ではおれないのか。説明せよ。

問六 傍線部⑤に「教育は不可能であるが、されど、教育なしには人間は生きる道を見つけれない」とある。これはどういうことか。二つの「教育」の違いを明確にしなが、八十字以内で説明せよ。

問七 この文章では、のように段落の冒頭に逆接の接続語が多用されている。このような論の展開の特徴について、
八十字以内で説明せよ。

第二問 次の文章は、山田詠美『海の庭』の一部である。主人公の日向子は高校二年生。家族は母親の実家で暮らしていたが、高校

入学直後に両親が離婚し父が出て行った。父の荷物の搬出にやってきた引越業者(作並)は母の幼なじみで、それ以来、彼はたびたび実家を訪れるようになる。二人は子供の頃、実家の庭を遊び場にしており、その時の会話を二人が再現する様子。日向子は何度か目撃する。日向子も彼と親しく話すようになり、母にならって作並くんと呼ぶが、母と彼の関係に違和感がぬぐえない。夏休み、日向子・作並・日向子の友人の三人で海に行く。これを読んで、後の問いに答えよ。

著作権保護の観点から、公開していません。

出題した問題文では、あらずじ紹介に誤りがあり、傍線を付した部分に作品内容とズレがありました。

作品内容を正しく反映させると傍線部は次のようになります。

「家族はマンションで暮らしていたが、高校入学直前に両親が離婚し、母と日向子が母の実家に引っ越す。荷物の」
学内で慎重に検討し、この誤りが本文の読解に影響しないこと、採点基準・採点結果等に修正の必要のないことを確認いたしました。

原作者及び出版社には、あらずじの紹介が不正確な表記となり、ご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

著作権保護の観点から、公開していません。

著作権保護の観点から、公開していません。